

## 「2023年度国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部2年 竹内 千尋

## ① 学習成果

今回のプログラムに参加する以前は海外に行ったこともなく、留学などについて考えるどころか日本以外の国について具体的なイメージがないままでした。しかし今回のプログラムに参加し、日本以外の場所がどのようなものなのか、日本以外で暮らすことがどのようなことであるのかを肌で感じ、もっと他の世界を見てみたいと思うようになりました。また、国際政治や国際関係をよく知っている人と話す機会もあり、国際関係についてより強い関心を抱くようになりました。今までは国際関係を学ぶために新聞で時事問題を読むことしか具体的な行動を起こしていませんでしたが、これからは大学の図書館を活用して国際政治や国際関係に関わる書物を読んだり、サークルなどを利用して留学生と交流を持つ機会を増やしたりしていきたいと思っています。

また、留学に関して、今までは費用の面からあまり積極的ではなかったのですが、今回の留学で交換留学予定の京大生と関わる機会が多かったことで、自分も奨学金等を利用してどうにかして交換留学に行くことはできないかと現在考えています。

## ② 海外での経験

参加したプログラムは京都大学以外から来た学生も多く、留学期間中同じ宿舎に滞在していた学生とは特に仲良くなって多くの行動を共にしていました。台湾に住んでいる学生だけでなく、普段は全く異なる地域で生活している日本人学生とも仲良くなれたのはこのような短期留学のプログラムに参加したからこそだと思います。

滞在中、平日は主にプログラムの授業を受け、週末は休日のため少し遠出をして台湾観光をしました。最初の休日は十分、九份に、次の休日には高雄に、最後の休日には空猫に行き、景色を見たりその地域で有名な食べ物を食べたりしました。その点についてはあまり旅行と変わらなかったと思います。しかし、お店や屋台で注文するにあたり、最初のほうは英語を使ったり中国語を以前から学んでいる友人に助けってもらったりしていましたが、最後のほうには英語を使わずに自分で中国語を使って注文することができるようになっており、成長を感じました。また、プログラムは国立台湾大学で行われていたため大学のイベントやサークル活動にも参加する機会があり、多くの学生と繋がりを持つことができました。

幸い危険な目に遭うこともなく、台湾の食事や風景、文化、日常を常を感じ、学ぶことができました。

## ③ プログラム内容

プログラムのほとんどは国立台湾大学で行われました。平日は午前中に3時間中国語の授業があり、午後は日によって文化を学ぶ授業があったり、チューターセッションがあったりしました。中国語の授業では拼音や自分の名前を学ぶところから始まり、シチュエーションに沿って文法や単語を学習しました。授業は英語で行われ、中国語の発音をかなり習得できるカリキュラムであったように思います。最終的に自己紹介や簡単なプレゼン程度であれば中国語のできるようになりました。文化を学ぶ授業では台湾のお祭りやお祭りで食べられる食べ物、博物館や社会問題について学んだ他、故宮博物院や剥皮寮歴史街區、龍山寺などにも訪れ、実際に目で見て文化を学びました。また、プログラムには One Day Trip があり、宜蘭に訪れました。宜蘭ではDIY体験で葉を作ったり、葱餅を作ったりして大学内ではできないようなことをさせていただきました。ただ言語を学ぶだけでなく、台湾の文化にも多く触れられたことは、普通の留学と異なりこのプログラムに参加する大きなメリットであったと思います。チューターセッションでは台湾大学の学生さんが各クラスにチューターとしてつき、台湾について教えてくれたり、中国語の学習やファイナルプレゼンテーションの準備を手伝ってくれたりしました。チューターとはかなり仲を深め、一緒にご飯を食べたり、大学外で遊んだりもしました。プログラムにおける説明や授

業は全て英語で行われたので、英語力も同時に向上したと感じています。

④ 進路への影響について

留学に行く前は特に具体的な進路の希望は無く、とりあえず就職希望でした。しかし、今回の留学で日本語以外で学習したり、さまざまなバックグラウンドを持つ学生と共に学んだりすることができるというような、海外の大学で学ぶメリットを感じ、海外の大学院で学ぶという選択肢が新たに生まれました。実際にその選択肢を取れるかどうかは分かりませんが、進路についての視野が広がったとは感じています。また、就職に際しても海外駐在の可能性のある企業や海外と取引のある企業、あるいは国際協力を目的とする団体を主に見ていきたいと思うようになりました。